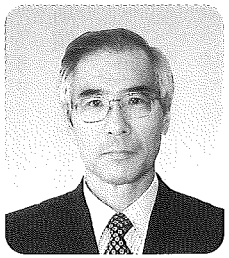
執筆者紹介

執筆委員長
福岡　博
昭和六年七月十日生

執筆分担　概説・宗教・監修
住所　佐賀市本庄町本庄三三九―一〇
学歴　法政大学文学部地理学科卒業
経歴　昭和二十六年から主に佐賀県立図書館に勤務。平成四年三月四一年間勤務した県庁を退職。その間「佐賀県農地改革史」「佐賀県史」「佐賀県教育史」などの編さんに従事。現在　西九州大学、佐賀短期大学、佐賀県高齢者大学の非常勤講師
所属　佐賀民俗学会会長、九州史学会員
著書　「郷土の歴史・佐賀県」（宝文館）・「佐賀豆百科一～三」（金華堂）・「ふるさと想い出写真集」（国書刊行会）・「蓮池藩日誌」（ふるさと社）・「佐賀の民謡」（佐賀新聞社）・「佐賀城下町みて歩き」（佐賀市役所）・「佐賀幕末明治の五〇〇人」（佐賀新聞社）その他多数
共著　「千代田町誌」・「三瀬村誌」・「川副町誌」・「上峰村史」・「三田川町史」・「東脊振村史」・「東与賀町史」・「諸富町史」・「脊振村史」・「富士町史」・「さがの女性史」その他多数
表彰　平成二年十月　図書館活動の功績により文部大臣表彰受賞
平成十二年十月十五日　郷土研究の功績で佐賀県芸術文化賞受賞



執筆委員
森　周藏
昭和十八年八月十九日生

執筆分担　中世―鎌倉・室町
住所　佐賀市大財二丁目八番二五号
学歴　法政大学文学部史学科卒業
経歴　昭和四十一年より長崎県で高校教諭として一二年間勤務。昭和五十三年より佐賀県で高校教諭として勤務。現在小城高校に勤務。
所属　佐賀民俗学会々員
論文　「高島炭坑に関する一考察」・「東肥前の在地土豪について、小田氏を中心にして」
共著　「諸富町史」・「牛津町史」・「蓮池藩日誌」・「脊振村史」・「富士町史」

執筆委員
金子　信二
昭和二十年一月十九日生

執筆分担　民俗全般
住所　佐賀市新栄東四丁目二―三九
学歴　福岡県立嘉穂工業高等学校卒業
経歴　民間会社勤務後、平成十二年より各市町村史の執筆にあたる。
所属　佐賀民俗学会・日本民俗学会
論文　『葉隠研究』に彦山信仰・須古踊・弁財天信仰ほか多数
共著　「上峰村史」・「東脊振村史」・「牛津町史」・「東与賀町史」・「富士町史」民俗編執筆。

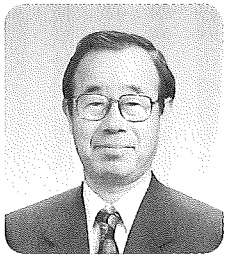
執筆委員
小宮　睦之
昭和七年十月十一日生

執筆分担　近世～安土桃山・江戸
住所　佐賀郡大和町大字久池井一五四四―一二
学歴　佐賀大学教育学部卒
経歴　佐賀県高校教諭へ経て佐賀県立博物館副館長、定年後、教育委員会文化課嘱託（歴史資料調査）
主たる共著　「佐賀県史」・「佐賀市史」・「唐津市史」・「武雄市史」・「多久市史」・「佐賀藩総合研究」・「佐賀県歴史散歩」など
所属　日本歴史学会　九州史学会

執筆委員
宮島　昭二郎
昭和二年六月七日生

執筆分担　農業編
住所　佐賀県小城郡三日月町久米三九〇
学歴　東京農業大学農学部農業経済学科卒業（昭和二十七年）
学位　農学博士（九州大学　昭和四十六年）・名誉教授（熊本女子大学・現・熊本県立大学）・名誉教授（中国社会科学院、名誉教授・中国北京市）
経歴　昭和二十七年、佐賀県農業試験場・佐賀県農業大学校に勤務。昭和五十八年、熊本女子大学。教授。「食糧経済学」、「経済史」担当。生活科学部長、附属図書館長を併任して平成五年停年で退職。名誉教授。平成五年に九州国際大学。教授。「農業

経済論」、「中國経済論」を担当し、同九年に停年で退職。昭和五十年以降、中国社会科学院、農村経済研究所で共同研究と大学院で世界食糧論を講義。平成十年名誉教授。
主要著書　「王島蜜柑発達史」隆文社、昭和三十三年・「日本農業の生産力構造」お茶の水書房、昭和四十年・「経済発展と小農法則」お茶の水書房、昭和四十三年・「米つくり」―その苦難の歩み―亜紀書房、昭和四十四年・「九州ミカン発達史序説」佐賀農試、昭和四十六年・「現代中國農業の構造変貌」九州大学出版会、平成五年



執筆委員
角田　研三
昭和十四年十一月二十三日生

執筆分担　近代～明治・大正・昭和
住所　佐賀市本庄町本庄八一七
学歴　佐賀大学教育学部小学課程卒業
経歴　昭和三十七年、北山東部小を振り出しに東与賀小、附属小、教育センター、金立小、循誘小、兵庫小、西与賀小などに三八年間勤務。平成十二年三月に退職。その間、県社会科教育研究会や生活科教育学会、県・九州・全国小校長会等の研究や運営に参画。現在、佐賀市立本庄公民館の館長。
所属　佐賀近代史研究会会員
研究　「郷土の開発に尽くした成富兵庫」（全小社研熊本大会発表）「シミュレーション的手法による社

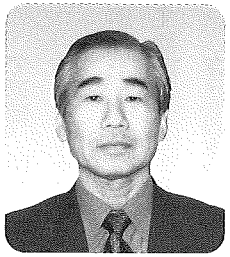
会科学習指導法の改善」（広大附属小提案）「歴史学習における一人ひとりの学習意欲を高める指導法の研究」（県教育センター共同研究）

著書　教師用指導資料「郷土富士村」

共著　「佐賀新聞に見る佐賀近代史年表」（佐賀新聞）「佐賀の歴史」（光文書院）

表彰　平成十一年十一月　教育功労者として文部大臣表彰受賞

・平成十二年三月　公立学校教育に対し尽力したとして県教育長表彰受賞



集落史執筆者

荒木　正次

昭和二十五年一月十八日生

執筆分担　集落史（ふるさと探訪）

執筆副委員長

中野　和

大正十一年九月二十四日生

執筆分担　現代・人物

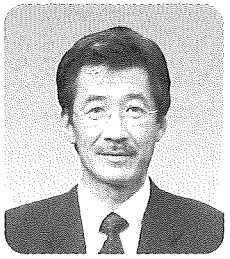
住所　佐賀郡久保田町大字久保田七四―一

学歴　佐賀県師範学校本科一部卒業

経歴　昭和十七年三月三十一日杵島郡大町町国民学校勤務。昭和十八年九月十日西部一〇一部隊（第九航空教育隊）入隊、昭和十九年十一月スマトラ派遣富九六二七部隊。昭和二十一年十二月四日復員（広島県大竹港）昭和二十二年四月復職、杵島郡大町町立大町小学校、久保田町立思斉小学校勤務、昭和三十七年九月一日より佐賀県教育委員会社会教育主事、昭和四十三年四月教育現場に復帰、佐賀市郡の小学校歴任の後、昭和五十七年三月久保田町立思斉中学校を最後に教職を退く。同年四月十五日より久保田町教育委員会社会教育指導員、六十年四月一日、久保田町公民館長～平成八年三月三十一日退職（その間県公民館連合会副会長八年）、平成二年九月久保田町文化協会会長

所属　久保田町老人クラブ連合会　久保田町社会教育委員長

表彰　昭和四十五年九月十九日視聴覚教育功労者表彰（日本映画教育協会）、昭和六十三年八月二十三日視聴覚教育功労者として文部大臣表彰　平成四年十一月三日、社会教育功労者、県教育委員会表彰　平成七年十一月二十二日社会教育功労者として文部大臣表彰



執筆委員

七田　忠昭

昭和二十七年一月十六日生

執筆分担　原始・古代

住所　神埼郡神埼町志波屋一六〇八

学歴　國學院大学文学部史学科（考古学専攻）卒業

経歴　昭和五十二年、佐賀県教育庁入庁。以後、文化財の保護・調査に携わる。昭和六十一年から吉野ヶ里遺跡の発掘調査・整備を担当し、現在に至る。佐賀県教育庁文化課吉野ヶ里遺跡班専門員。

住所　佐賀郡久保田町大字徳万八五四―六

学歴　佐賀県立佐賀東高等学校卒業

経歴　昭和四十三年四月から久保田町役場に勤務。平成九年六月から「広報くぼた」にふるさと探訪を執筆。平成十年七月町史編纂事務に従事。平成十二年四月から町教育委員会に配置転換。

所属　久保田町教育委員会

所属　考古学研究会、九州考古学会、条里制・古代都市研究会など

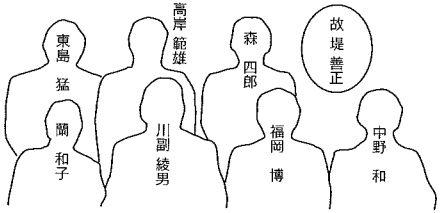
著書　『吉野ヶ里遺跡発掘』・ポプラ社・平成二年、『吉野ヶ里遺跡』・読売新聞社・平成六年など

論文　「文様ある銅矛について」『九州考古学』五二号昭和五十一年、「肥前神埼郡における駅道と官衙的建物群の調査」『条里制研究』四号　昭和六十三年、「日本の弥生時代集落構造にみる大陸的要素」『東アジアの初期鉄器文化』韓国国立文化財研究所　平成八年、「日韓環壕集落の変革の画期とその要因」『晋州南江遺跡と古代日本』韓国慶尚南道・仁済大学校　平成十二年　など

町村史　『上峰村史』（弥生時代）、『東脊振村史』・『脊振村史』・『富士町史』の原始・古代編

表彰　佐賀新聞文化賞（平成元年）、西日本新聞文化賞（平成元年）

町史編さん委員（東島氏は同事務局長）



（敬称略）

〔註〕詳しくは「あとがき」に。

あとがき

平成十年に思い立たれた『久保田町史』が三カ年の編さん期間を経て、このほど完成をみた。これまでの歩みと経過を振り返ってみる。

一、町史編さんの思い立ち

平成十年ごろ、心ある町民の間で次の事が思いめぐらされるようになった。

(1)去る昭和四十五年に高森豊吉（元町長）を編さん委員長とする郷土先人の労作で発行された町史も、早や三〇年も経ち、町の様子もいろいろ変わった。その町史の功績を受け継ぎ、さらに内容を豊富にし、専門的に体系づけて再編してはどうか。

(2)昭和五十一年（一九七六）に完成した圃場整備で旧来の地形が変貌し、道路は道筋を変更され、河川は流れを変えた。

(3)石祠、石仏などは、適地適処に寄せ集められ、それらのルーツは何だろうか。

(4)昔からの子どもの遊びや、行事、しきたり（村祭り、お籠（こも）りなど）も消えかけているのではないか。

(5)明治、大正はもちろん、昭和の初めのころの事を知っている古老たちが少なっているのではないか。

(6)去る昭和四十二年四月に町制がしかれて、平成十四年には町制施行三五周年になるので、その記念事業として、新しい『久保田町史』を刊行してはどうだろうか。

右のような論議が熟し、気運が高まり、平成十年に町議会で「久保田町史編さん委員会条例」（条例三号）が可決され、町史編さんの取り組みが始まったのである。

二、町史編さん委員の任命と町史執筆委員の委嘱（平成十年六月二十七日）

先に述べて町条例に基づいて両委員が決定され、その陣営を固めた。

(1) 編さん委員

① 町史編さん委員会会長に、町長の川副綾男氏。
② 同副会長に、町史執筆委員長の福岡博氏。
③ 編さん委員に、町議会議員の蘭和子氏。
④ 同じく、町教育委員会委員長の堤善正氏。（ただし、平成十二年一月八日にご逝去）
⑤ 同じく、町文化財保護審議会副会長の森四郎氏。
⑥ 同じく、町史執筆副委員長の中野和氏。

（以上六名）

(2) 執筆委員

① 執筆委員長、かつ「監修・概説」担当として福岡博氏。
② 執筆副委員長、かつ「現代」担当として中野和氏。
③「原始・古代」担当として木下巧氏。（のち、交替）
④「中世（鎌倉・室町）」担当として森周藏氏。

⑤「近世（安土・桃山・江戸）」の担当として小宮睦之氏。
⑥「近代（明治・大正・終戦までの昭和）」の担当として古川長次郎氏。（のち、交替）
⑦「民俗」の担当として金子信二氏。
⑧「農業」の担当として宮島昭二郎氏。

三、町史編さん事務局の設置

前記の条例に基づいて、「事務局」を町企画課に置くことになった。企画課では事務局陣容を特別に補強し、専従の嘱託職員として町史編さん事務局長及びその補助職員を任用（平成十年七月一日付）し、そのための特設の事務局を役場北別館二階に置くことになった。

ここで、編さん資料の収集整理と推進事務が処理され、多忙を極めた。

四、執筆委員及び編さん委員の異動

(1)古川執筆委員が病気理由で辞任されたので、後任として角田研三氏が「近代」担当で平成十一年十月一日、委嘱を受けられた。

(2)木下執筆委員が病気理由で辞任されたので、後任として七田忠昭氏が「原始・古代」担当で平成十一年十一月一日、委嘱を受けられた。

(3)平成十二年一月八日、堤善正編さん委員のご逝去に伴い、後任として町教育委員長の高岸範雄氏が任命されることになった。

五、編さん委員会の開催

編さん委員会の開催は通算、わずか三回であるが、編さん出版関係の予算措置に努力し、編さん事業の大筋の舵取り役も果たしてもらった。回ごとの要点を記しておこう。

初回は平成十年六月二十七日。編さん委員及び執筆委員の合同で会議をもち、事務局の資料提示で、町史編さん及び調査研究、執筆の段取り等について協議した。

第二回編さん委員会は平成十一年十一月十六日。福岡執筆委長から、執筆委員の調査や執筆の進捗状況についての報告、また、事務局からは収集した資料や作成した冊子の提示が行われ、それを委員会は了承した。

第三回編さん委員会は平成十三年十月五日。福岡執筆委員長の監修を終えて完成した各執筆委員の原稿を検覧して、印刷に回す段取りを協議した。

六、執筆委員会の開催

執筆委員会は、担当分野の専門的調査研究（執筆）を進めている各執筆委員相互の、参考資料を収集してきた事務局も入れての研究協議であり、原則として毎月、第三ないし第四土曜日の午後を当てる例会である。

会では、①調査資料の紹介・検討、②研究情報の交換・助言指導、③原稿執筆状況の発表を行い、この協議は福岡執筆委員長のリードで進められた。

その期日と場所、（注記など）記録すると、以下のとおりである。

第1回　平成10年7月25日　役場北別館会議室（この日は、初回であった関係で協議の後、当時課長補佐だった荒木氏の案内で町内を一巡、史跡めぐりも行った。）

第2回　平成10年9月25日　役場北別館会議室
第3回　平成10年10月24日　役場北別館会議室
第4回　平成10年11月28日　役場北別館会議室
第5回　平成11年1月23日　役場本館第2会議室
第6回　平成11年2月27日　役場本館第2会議室
第7回　平成11年3月27日　役場本館第2会議室
第8回　平成11年4月24日　役場本館第2会議室
第9回　平成11年5月22日　役場本館第2会議室
第10回　平成11年6月26日　役場本館第2会議室
第11回　平成11年7月24日　佐賀県立図書館
（この回は特別に県立図書館を会場にし特別閲覧室で諸協議をした後、郷土資料倉庫に入り、福岡委員長から詳しい解説をいただいた。）
第12回　平成11年9月25日　役場本館第2会議室
第13回　平成11年10月30日　役場本館第2会議室
第14回　平成11年11月27日　役場本館第2会議室
第15回　平成12年1月22日　役場本館第2会議室
第16回　平成12年2月26日　役場本館第2会議室
第17回　平成12年3月25日　役場本館第2会議室
第18回　平成12年4月22日　役場本館第2会議室
第19回　平成12年5月20日　千鳥饅頭本家
（この千鳥饅頭本家の建物が文化財に相当するので、見学のため会場にした。村岡屋村岡麻央社長の挨拶を受けた。）
第20回　平成12年6月17日　役場本館第2会議室
第21回　平成12年7月15日　役場本館第2会議室
第22回　平成12年9月16日　役場本館第2会議室
第23回　平成12年10月28日　役場本館第2会議室
第24回　平成12年11月18日　役場本館第2会議室
第25回　平成13年1月20日　役場本館第2会議室
第26回　平成13年2月17日　役場本館第2会議室
第27回　平成13年3月17日　役場本館第2会議室
第28回　平成13年4月21日　役場東別館図書室

第29回　平成13年5月26日　役場東別館図書室
第30回　平成13年6月16日　役場東別館図書室
第31回　平成13年7月21日　役場東別館図書室
第32回　平成13年8月18日　役場東別館図書室
（この日、全執筆委員が最終目次を提出した。）
第33回　平成13年9月22日　役場東別館図書室
第34回　平成13年10月20日　役場東別館図書室
（この日、印刷業者「三光」に原稿を渡す。）
第35回　平成13年12月15日　役場東別館図書室
第36回　平成14年1月19日　役場東別館図書室
第37回　平成14年2月16日　役場東別館図書室

七、印刷業者の選定と原稿渡し

平成十三年十月十六日、役場において入札が行われた結果、伊万里市の株式会社三光に決まった。これを受けて十月二十日、第三四回執筆委員会終了後、全執筆委員立ち会いのもと、三光印刷に原稿を渡した。

八、校正と上梓

原稿渡しの後は校正を待った。早くも平成十三年十二月一日、「原始・古代」の校正刷りが上がって来た。次々と、各分野とも校正で忙しくなる。

感心したのは三光印刷に誤植の少ない、仕事の精密なことである。各執筆委員は、初校、二校、三校と済まし校了に近づいて行った。

そして上巻の上梓が三月三十日、下巻は四月三十日で、待望の新『久保田町史』の上梓を見るに至った。

九、執筆担当者

町史の各時代・各分野の担当者は次のとおりである。（敬称略）

○上巻

概説　福岡　博
原始・古代　七田　忠昭
中世（鎌倉・室町）　森　周藏
近世（安土・桃山・江戸）　小宮　睦之
近代（明治・大正・終戦までの昭和）　角田　研三
戦没者名簿　東島　猛
中原　陽子

○下巻

現代（終戦後の昭和・平成）　中野　和
農業　宮島昭二郎
宗教　福岡　博
民俗　金子　信二
ふるさと探訪　荒木　正次
年表（上下巻共）　東島　猛

一〇、町史編さん事務局のスタッフ

「久保田町史編さん委員会条例」（平成十年条例第三号）の第九条によって設置された事務局のスタッフは次のとおりである。

弥永　峯雄（前企画課長）
荒木　正次（前企画副課長）
黒田　久子（前企画係長）
野田新一郎（前企画課主事）
浜野　恵子（前町史編さん補助）
馬渡　誠二（企画課課長）

蘭　善人（企画課副課長）
南川　義晴（企画課調整係長）
香川　文誉（企画課主査）
中原　邦貴（企画課臨時職員）
中原　陽子（町史編さん補助）
東島　猛（町史編さん事務局長）

一一、町史編さん・出版に要した経費

このことについては、下表のとおりである。

以上、町史編さんの決定以後の経過や関係事項を報告する次第である。

平成十四年三月

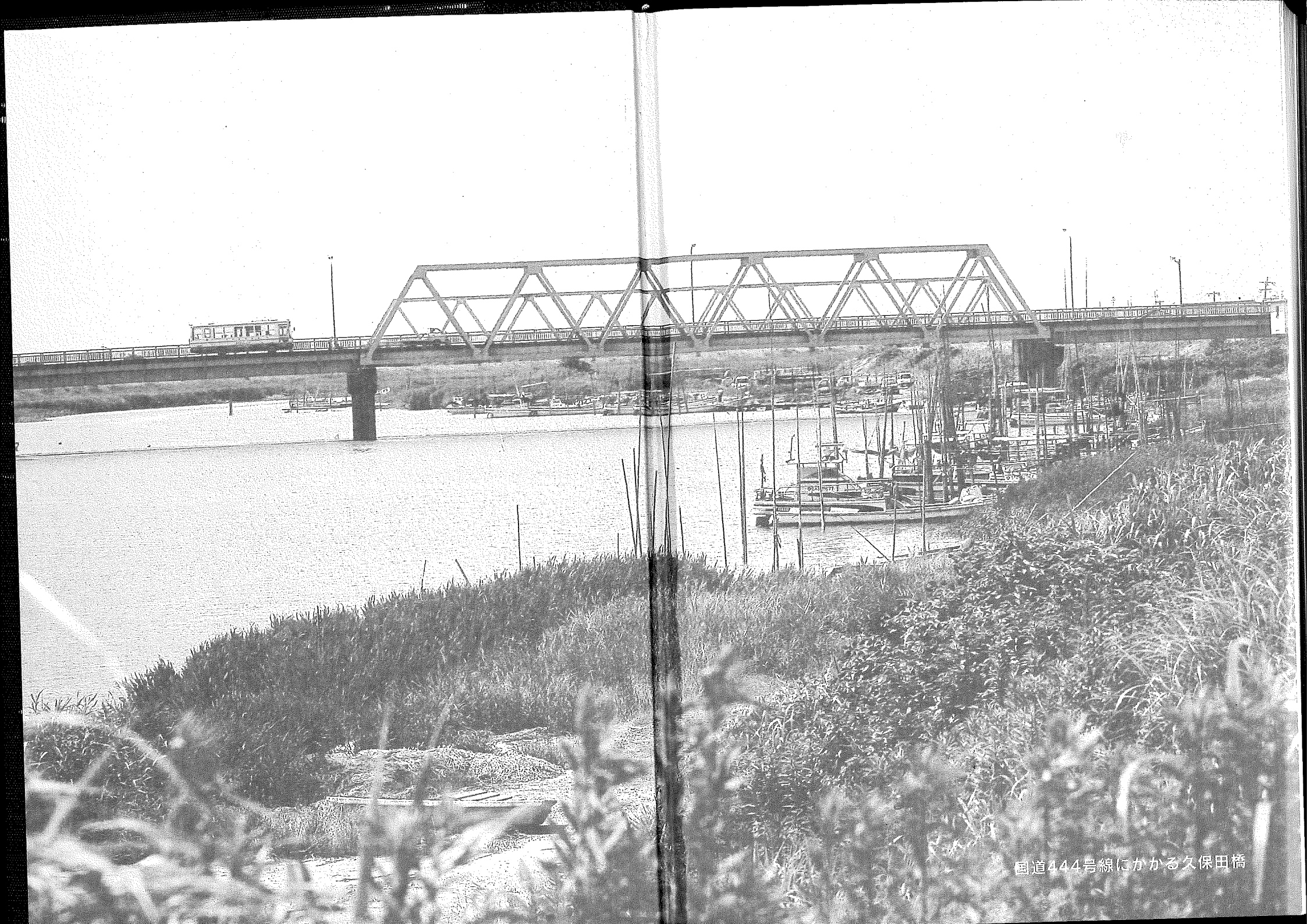
久保田町史編さん事務局長
東島　猛

久保田町史編さん事業費年度別調（平成13年度は見込み額を含む）　（単位　千円）

区分		平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
委員報酬	編纂委員報酬	16	11	0	16
	執筆委員報酬	2,160	2,820	2,880	2,880
	事務局長報酬	1,392	1,872	1,872	1,872
賃金	事務局員賃金	648	1,079	1,181	1,173
旅費	執筆委員旅費等	72	270	69	82
	事務局員旅費	0	69	28	18
需要費	食料費	62	0	0	110
	消耗品費	54	58	99	200
	印刷製本費	0	0	0	4,553
役務費		20	20	20	20
委託料		0	200	0	150
使用料賃借料		0	0	0	3
備品購入費		116	42	45	0
合計		4,540	6,441	6,194	11,167

久保田町史　下巻

発行　平成十四年（二〇〇二）三月三十一日
編集　久保田町史編さん委員会
発行者　久保田町
発行所　佐賀県佐賀郡久保田町新田一一〇九―一
久保田町企画課
久保田町史編さん事務局
印刷所　伊万里市大坪町乙四一六一―一
株式会社　三光



国道444号線にかかる久保田橋

久保田町史（下巻）正誤表

（行の欄で数字のみは右から）

頁	行	誤	正
六	四	地方財産・	地方財政・
二九	左から一一	詫・隆廣	詫広・隆廣
三八	三	大島和幸H12・1・31死亡	大島和幸H13・6・28死亡
	六	南川義光H13・6・28死亡	南川義光H12・1・31死亡
四二	歴代議会議員名簿　第2回公選　S26・5・1～S30・4・30		
		記載もれ	中尾米吉
		記載もれ	中尾禮一
四三	五	大島和幸H12・1・31死亡	大島和幸H13・6・28死亡
	一二	南川義光H13・6・28死亡	南川義光H12・1・31死亡
一四四	左から二	受・給・状況	加・入・状況
二〇二	二	窓の梅	窓・乃・梅
二〇七	左から二	教育・養成	教員・養成
二〇九	左から三	内心	内申
三〇〇	下段の写真	木造阿弥陀如来坐像	木造阿弥陀如来坐像 佐賀県立博物館蔵
三〇一	五	佐賀県立博物館蔵	削　除
三〇九	左から四	東京工・科・大学	東京大学
三二三	五	昭・和・二十七年	明・治・二十七年
八三一	左から三	野田新一・郎	野田新二・郎

久保田町史（上巻）正誤表

（行の欄で数字のみは右から）

頁	行	誤	正
五七一	七	詫・廣・春一	詫・広・春一
		詫・廣・金吉	詫・広・金吉